

編集後記

この度の東日本大震災では、グラッと来た直後から新潟県内でも多くのDMATが臨戦態勢に入り、発災から1時間後には早くも第1陣が被災地に向けて出動していた。その後も県内各地からその日のうちに10チームが続々と出動し、雪の中を被災地の救護に向かった。急性期の後は災害拠点病院中心の新潟県医療救護班と、医師会中心のJMATが並行して、5月末まで医療支援を継続した。震災から早くも1年、ここに新潟県からの医療支援の記録をまとめて出版することができた。

この記録集発行の目的は今回の経験を今後に生かすためである。その目的に沿って、各報告書のタイトルや小見出しを編集させていただいた。1964年の新潟地震は新潟国体の直後に起きた。その後中越地震、中越沖地震、そして今回である。救護活動は確実に進歩している。震災後の混乱と疲労にも負けず、多くのチームから報告書を書いていただいた。それらの中には、知らなかった現実のドラマがたくさん書かれている。同じ新潟県の医師として、仲間を誇りに思う。(内山 政二)